

「家康の眼鏡」再現

同じ度数 透かし彫りも



家康公
顕彰400年

県眼鏡商業協同組合（正野智男理事長）は徳川家康公顕彰400年祭に合わせ、静岡市駿河区の久能山東照宮に残り家康が愛用したと伝わる眼鏡（目器）を複製した。製作したのは計70個。このうち1点を3日、浜松市に寄贈した。

県商協組 浜松市に寄贈



①徳川家康が愛用したとされる眼鏡の複製品を手にした鈴木康友浜松市長（中央）と県眼鏡商業協同組合の関係者ら。3日午後、浜松市役所①徳川家康が愛用したとされる眼鏡の複製品

複製品の大きさは幅9センチ、枠とレンズを合わせた直径が4センチほど。レンズにはガラスを使い、実物と同じ度数に加工した。枠は鎌甲（へっこごう）から同色のアセテート素材に変えたが、透かし彫りは忠実に再現した。

家康の眼鏡は国の重要文化財。晩年に老眼鏡として使っていた可能性があるという。同組合は400年祭の盛り上げに一役買おうと1月から準備を進め、眼鏡の産地福井市のメーカーの協力を得て複製品を完成させた。

浜松市役所には大脇弘一理事（同市中区）ら3人が訪れ、鈴木康

友市長に手渡しして特徴を説明した。鈴木市長は手にとつてのぞき込み、「見やすいね」と話した。

複製品は非売品。同組合は加盟する59店舗に展示し、静岡市や久能山東照宮などにも寄贈する予定という。

大脇理事は「当時の技術の高さなどを多くの人に見てもらいたい」と話した。

同市は4日から、家康の西洋時計の複製品と共に市博物館（同市中区）で一般公開する。

①家康の名字は何でしょうか。

[]

②家康は、眼鏡をどのように使っていたのでしょうか。

[]

③博物館で眼鏡と一緒に公開している物は何でしょうか。

[]

2015年6月4日 朝刊

年 組 名前

（小学生・中学生 社会）